

【2月20日（月）情けは人の為ならず】

元気よく朝の挨拶をしましょう。おはようございます。

さて、先週、「ふれあい月間」についてお話をしました。友達と仲良く過ごすために、「してはいけないこと」をしないというだけでなく、自分がしてもらってうれしいことを相手にもしていこうというお話をしました。

では、今日は違う角度からふれあい月間について考えてみましょう。もしもお友達が廊下を走っていて、目の前で転んだら、あなたなら、どうしますか。

「廊下を走ることは悪いことなので、助けないとか、自分で立ち上がった方が、その子の為になるので助けない。」かそれとも、「手を差し伸べて、大丈夫？と優しく声をかけて、助けてあげる。」のどちらでしょうか。

少し難しい言葉ですが、「情けは人の為ならず」という言葉があります。

この言葉は、「人に思いやりの気持ちをもって親切にすれば、その相手のためになるとともに、それが巡り巡って自分に戻ってくる」という意味です。人にしたことは自分に返ってくるのです。

ですから廊下で転んで困っている人を見たら、助けてあげてください。ただ、けがをしないでよかったね、で終わりにしないで、廊下を走ると危ないよと言ってあげることが大切です。

情けをかけるというのは、単に助けてあげるということではなく、相手のことを考えて、どうしたらより良くなるのか、一緒に考えてあげることだと思います。

「情けは人の為ならず」は難しい言葉ですが、お友だちが困っていたら、どうぞ助けてあげてください。それは、相手を甘やかすこととは違います。そしてこれからどうしたらいいか、一緒に考えてあげてくださいね。

今日は「情けは人の為ならず」というお話をしました。

以上でお話を終わります。（礼）

